



# 9月定例会

## 19年度決算を認定！

一般会計346億3780万円

総会計567億3140万円

(国保・介護・水道・下水道会計等含む)



現在の北鴻巣駅西口の様子

鴻巣市子ども教育ゆめ基金条例  
国際社会で活躍する人材を育成する  
ためには鴻巣市立中学校生徒海外  
派遣事業は重要な事業と位置づけら  
れますが、これに要する経費はこの  
ところの国際情勢の変化で航空運賃

### 条例等

### 主な議案の内容

本定例会は市長提出議案として、平成19年度決算認定をはじめ条例案、請負契約、平成20年度補正予算案など39件、請願3件、意見書3件が提出されました。それぞれ慎重に審議した結果、議請第4号から14号は不採択その他議案は原案のとおり可決および認定しました。

の高騰などにより継続的に同レベルの事業を実施していくことに困難が生じています。そこで、基金を設置し、事業の趣旨に賛同していただける市民・団体等の支援により本市の国際理解教育事業のなお一層の推進を図るものです。

鴻巣市人工地盤上に設置される公園条例  
北鴻巣駅西口土地地区画整理事業により人工地盤（遊水地上）に設置される公園の管理条例です。人工地盤上に築造された公園は、地盤の構造上都市公園法に規定する公園として位置づけられないため、地方自治法第244条の2の規定に基づき当該施設の設置および管理を行うものです。

### 請負契約

鴻巣市防災行政無線統合工事の請負契約について

7月16日に一般競争入札により、6社で入札を行った結果この工事を



市内135ヶ所に設置されている防災行政無線

落札したパナソニックシステムソリューションズジャパン株式会社関連社と5億7012万4800円で工事請負契約を締結するものです。工事場所は鴻巣市全域。工事内容は現在、防災行政無線は、本庁舎、吹上支所、川里支所の3局3周波数のアナログ方式の無線を運用しておりますが、これをデジタル方式の1周波数に移行させるものです。これにより、音声の放送以外に、インターネットなどを利用した文字データでの伝達も可能とします。工事の履行期限につきましては平成25年1月31日までです。

### 平成20年度補正予算

主な歳入として地方特例交付金・普通交付金は本年度の交付決定額。使用料は条例にともなう北鴻巣駅西

口公園使用料。その他国庫および県支出金。繰越金は平成19年度決算額の確定に伴うものです。

主な歳出として総務費は新規路線川里・常光コースを含むコミュニティバス6台の購入費1億1200万円、体育館などの公共施設予約システムの導入費用289万円のほか、公共施設の修繕料、道路整備・修繕など。また教育費では「子ども教育ゆめ基金」創設にあたり、積み立て金100万円、常光小学校校舎の耐震調査委託料等、今回の補正額は8億2047万円で補正後の予算総額は325億6604万円です。

### 平成19年度決算

歳入総額は一般会計で346億3780万円となり前年度より9・7パーセント増加しました。

国民健康保険事業をはじめとする特別会計を全て含めると567億3140万円となります。

財政の根幹となる市税は平成18年度の税制改正により国から税源移譲され、12億8864万円の増収となった一方、地方交付税や他の一般財源収入は4億2708万円減少しました。歳出においては、少子・高齢化社会の伸展などに対応していくた

めの福祉施策の充実や安全で利便性が高い都市基盤整備など、ますます高度化、多様化が求められました。人件費や物件費、一般行政費について徹底した節減をし、健全な財政運営を心がけました。

国民健康保険事業では3回の補正を重ね、最終予算額は104億1379万円でしたが、近年の疾病構造の多様化や医療技術の高度化、被保険者全体の高齢化などにより医療費が増加し、歳入が歳出に不足したため、平成20年度の補正予算で繰上充用を行いました。市税の不納欠損は前年より改善されているものの6487万円にのぼること、また国民健康保険税では収入未済額が11億円あることが監査委員の意見書で報告されました。



楽しみながら健康づくり

### 賛成討論

原口市長は、平成19年度予算において、合併協議会で市民に約束した事業、とりわけ「合併後の鴻巣地域、吹上地域、川里地域でのいち早い一体性の確立」のために新鴻巣市の玄関である鴻巣駅、北鴻巣駅、吹上駅の3駅の駅前整備を推進するなど「積極型予算」を編成しました。そして、市民の長年の夢であった鴻巣駅東口駅前広場や駐車場が平成19年10月より供用を開始することができました。また、平成20年1月にはコミュニティバス「フラワー号」の実証運行も開始されました。このように平成19年度に予定していた大規模事業は、合併のメリットである合併特例債を積極的に活用するとともに、まちづくり交付金など国や県の財政支援をいただき、計画どおりに進捗したと評価しております。

また、少子高齢化が進行する中、本市は「ここのとり交付金」を創設し不妊に悩むご夫婦の経済負担を軽減し安心して出産できる環境をつくりました。

今後は、市民の声を今以上に聞き、反映していただくことを要望し、平成19年度の決算に賛成します。

### 反対討論

合併特例債を使つての大型開発優先する一方、市民には徹底した経費削減の決算となりました。その結果、実質収支比率3・8パーセント。經常収支比率92・3パーセント（70パーセントが望ましい）公債費比率11・4パーセント（10パーセント程度が望ましい）と財政の硬直化が表れています。

歳入では、国の地方交付税が1億7994万円削減。公民館など公共施設の有料化がされ2606万円の使用料、手数料が計上されました。

歳出では、鴻巣駅東口整備事業に約39億5689万円、三谷橋大間線に4億5996万円の大型開発が行われました。一方で既設公園整備は542万円でしかありません。市民が切望したプールも吹上に続き、旧鴻巣も廃止されました。経済苦が広がる中、こどもの医療費の窓口負担が廃止されません。お米の価格は60キログラム1万5075円、農家の時給は179円で国のいいなりの農業切り捨てが横行しました。

市民の命とくらしを守る政治への転換を求め反対討論とします。